6 安全な水とトイレを世界中に

～市職員、首都プノンペンの下水道整備に挑む～
カンボジア・プノンペン都

作成： 上下水道局海外事業課　　発行日： 令和 2 年 10 月 28 日

カンボジアでは「プノンペンの奇跡」と呼ばれる“水道”の普及が有名ですが、実は“下水道”にも手掛けているのをご存じでしょうか。使った水をきれいにして川や海へもどす。今回は、カンボジアへ派遣されている平野専門家からの下水道レポートです。

現在、プノンペンでは急激な経済成長と都市化が進むことで、**川や湖沼の水質悪化に限らず、ゴミ処理問題、交通渋滞など、様々な行政課題**が噴出してしています。プノンペンは人口 200 万人を越える都市ですが、いまだ下水処理場がありません。そのため、生活排水は郊外の沼地や川へそのまま垂れ流されています。

このような悪状況を打破すべく、カンボジアでの下水道分野の本格的な技術協力プロジェクトが 2019 年 4 月から開始されました。それにあわせて、本市職員が派遣され、プノンペン都公共事業運輸局と協力しながら仕事をしており、**下水道に関する法律、政令、条例といったルール、技術指針、及び組織体制づくりのサポート**を担当しています。

プノンペン都庁での会議の様子

本市は、これまでも JICA の「草の根技術協力」を通じて、**“ポンプ場施設の維持管理”、“市民の環境意識の向上”**に取り組んできた実績があります。カンボジア政府としても、環境保全や浸水対策のために、下水道整備を進めることを重要政策の一つとしています。本市から派遣された専門家は、日本での実務経験を活かしながら活動しており、カンボジアで政策を進めるうえでの重要な役割を期待されています。

小学校の先生と協働した環境教育

そして、ついに 2019 年 11 月、日本の援助で**プノンペン都初の公共下水処理場**を整備するプロジェクト事業が立ち上がりました。現在、**本市も参画してこの下水処理場の設計、運転維持管理に関する業務**を進めており、3年後の完成を目指しています。

これからも北九州市のノウハウをカンボジアで活かし、下水道システムの確立と水環境の改善に寄与し、**SDGs 達成に貢献**します。

（左）
処理場の予定地
生活排水により沼地が黒ずむ

（右）
下水処理場の完成イメージ

報告者： 上下水道局 海外事業課 海外事業担当係長 平野　哲

2002 年、JICA の支援により設立されたカンボジア合気道協会で、週二回の合気道を楽しんでいます。合気道は世界中に普及しており、ここプノンペンでも様々な国の方が集まり、合気道を通じて国際交流の（道）場となっています。

前列左から２人目が筆者